

☆外海を紹介します☆



外海は、海がきれいなところですよ!



旧外海町(現在の長崎市)にある、「出津教会堂と関連遺跡」



出津教会堂の周囲には、大切な関連遺跡もあります。

関連遺跡となっている①～④の建物をちょっとずつ見よう!!
☆関連遺跡とは…昔の人々の生活のあとに関係のあるもの。

出津教会堂 重要文化財



明治15年(1882年)にド・ロ神父により建てられました。屋根の上に2つ塔がある、珍しい教会です。外海では強い風が吹くため、屋根を低くし、教会内も平らな天井に設計されたと考えられています。



☆発見☆ この木目は、筆でかいたものなのです!本物みたい!

会いにきてね♪
これからの世界遺産に!

世界遺産ニユース

No.13

平成25年3月



発行
長崎県教育委員会

外海で親しまれている ☆ド・ロ神父☆

フランス出身のド・ロ神父は外海の厳しい状況を知り、その土地の人々と力をあわせ、よりよい生活を目指しました。



ド・ロ神父

働く人のために、子どもを預かる保育所や作業を行う制服などをとりいれました。

当時、マカロニとは別に、日本人の口に合うように工夫した麺も考案しました。

なんと!彼の日記は日本語で書かれています!(文字はローマ字)
(例) hatake = 畑 (はたけ)

みなさん、ぜひ、外海を探検してみてください!

旧出津救助院 重要文化財

救助院とは…ド・ロ神父が自ら資金を出し、①～④の建物を建て、医療、建築、農業、工業などの知識を教えたところ。
(そのおかげで、きびしい自然環境で生活に困っていた人々は、いろいろな仕事や技術を学ぶことができました。)

① 授産場 重要文化財

明治16年、完成。人々はマカロニ・ソーめんなどを生産し、染色、おり物、裁縫、農業を習っていました。

② 旧製粉工場

明治10年頃に建設。栽培した小麦を水車の力で粉にしていました。

④ 罾網工場 重要文化財

明治18年、完成。最初はいわし漁に使う網をつくる施設でした。その後、保育所となり、子どもたちの学びの場になりました。現在は、長崎市ド・ロ神父記念館として、当時のさまざまな道具類が展示され、地下も一部分が公開されています。

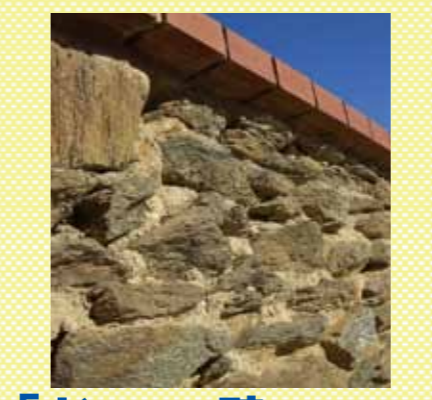


③ マカロニ工場 重要文化財

明治20年代に建設。日本人にとってはまだ珍しかったマカロニがつくられていました。

マカロニはおもに、長崎の大浦に暮らす外国人の人に販売されました。

☆見どころ☆



「ド・ロ壁(かべ)」

この地域でとれる自然の石を使い、周りは、赤土、石灰、砂などを混ぜたもので固めています。この方法を考えたド・ロ神父にちなんで名前となっています。

大野教会堂 重要文化財



明治26年、出津教会堂より少しはなれた大野に建てられました。少し赤く、独特な方法で石を積んだ壁は「ド・ロ壁(かべ)」と呼ばれ、とても丈夫なつくりです。

世界遺産登録を目指す、県内の構成資産を今後紹介していきます!

第2回 「出津教会堂と関連遺跡」



案内担当の美龍です♪